

サービス管理責任者と相談支援との連携

例：入所施設の場合

サービス管理責任者

相談支援専門員

施設から地域への移行準備開始

サービス管理責任者

顔つなぎ

相談支援専門員

施設から地域への移行近し

サービス管理
責任者

相談支援専門員

地域移行初期

相談支援専門員

地域移行安定期

相談支援専門員

連携するためには地域ネットワークの構築

地域生活の支援のためには、福祉、保健、医療、労働、教育など幅広い連携が必要だが、



サービス管理責任者は下記の視点が重要！

- 自立支援協議会の動向に着目する
 - 自立支援協議会に意見が吸い上げられ、必要なサービスが福祉計画に盛り込まれるよう課題別のワーキングチーム策定を働きかける(汗をかく)。
- 地域活動にまめに参加して顔つなぎ
 - 利用者が地域で参画しやすいように地ならしをしておく(学校・町内会や商工会行事への参加、自治会や商工会の委員を担う等)
- 自分の事業所の宣伝を
 - 知ってもらわなければ何も始まらない。気軽に相談や協力を得る仕組みを作ることで利用者の地域での課題解決がスムーズになる
- 地域の関係者とネットワークをつくる
 - 事例検討会を定例化し、地域の課題を明らかにする

支援に関わるあなたにしてほしいこと

- 個別支援過程から浮かぶ様々な社会資源の不備……
- その気付きは地域の財産です。
- 気付きをどのように生かしていくか……
- ○○が無いから仕方がない……ですか？



・これは自治体の仕事では……と思ったら×

☆当然、自治体も行政発でニーズ調査を行ってきた

☆担当者が把握(どこで?)し、持ち上げてきた施策ニーズ



☆しかし、**自立支援協議会**は施策決定に強力な助っ人

☆リアルに現場で求められている事案に関わる機会と優位

☆施策提案の根拠が明確(ケア会議でクリヤーに)

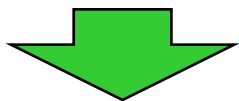
☆相手は財政という共通目標なんだ！！



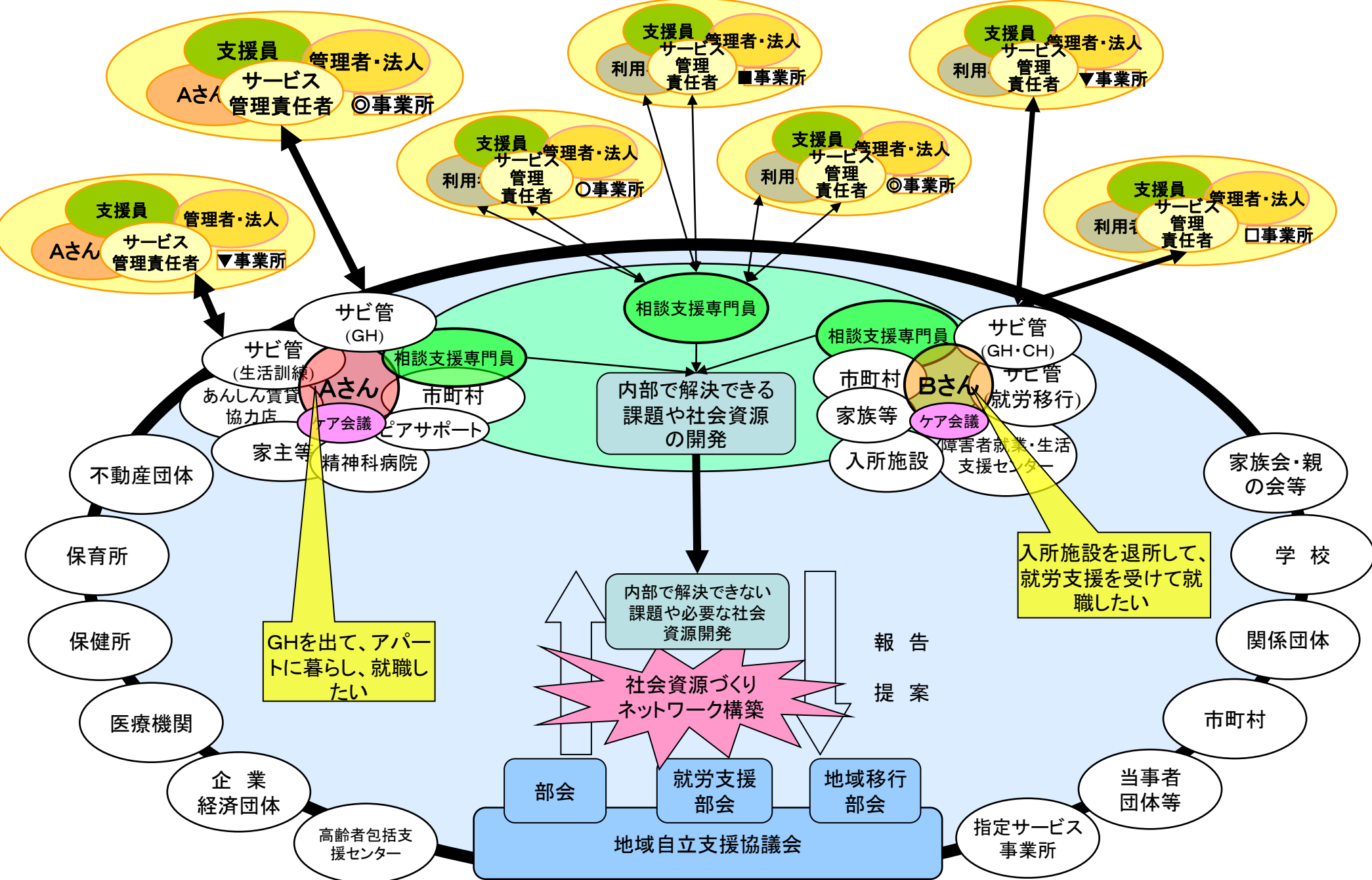
陳情・要求型から → 提案・協働型へ！

どうしてサービス管理責任者が自立支援協議会と関係するの？

☆支援に関わる関係者だけが集まっていた旧来のケア会議



- サービス管理責任者は、一つの事業ではあるが、個別支援計画の策定・実施・修正など利用者の人生の大切な一定期間の責任を担う。
- 複数の支援者が集まり、地域の資源を組合せ、利用者ニーズの実現に向けて話し合う個別支援会議には参加が必須・・・
- 個別支援会議で浮かんだ、あったら良いなというサービス、修正したら使い勝手がいいなというサービスを、認知された公的検討の場（それが自立支援協議会）の部会に持ち上げよう！
- それが、自立支援協議会全体会の議論につながる！



サービス管理責任者の位置づけのイメージ